

とねの会こども園 令和5年度自己評価

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた下記の項目について
創意工夫をもって実施することができたか？

5:たいへんよくできた
4:よくできた
3:できた
2:ややできなかった
1:できなかった

子育て支援

	結果	備考（具体的なエピソードなど）
保護者からの様々な相談を受けるにあたっては、プライバシーの保護や守秘義務を守って適切な態度で行えた	5	全体で情報を共有し、ひとりの悩みではない事やみんな同じような悩みを持っているということを感じてもらい、全体で共有した後で個別に声をかけて共感してきた。
保護者への助言の際には、保護者自身が理解、納得し、行動に移してもらえるように努められた	4	活動の際には保護者の方が分かりやすいように、まず開ける環境を整えてから行動してもらえようとした。また個別に声掛けが必要な家庭には寄りつくようにした。
適切な体制（内部体制・外部との協力：その状況に応じて）により、子育て支援が行えた	4	一時預かりの利用人数も増え、個々で慣らししていきながら同学年のクラスに入り他児とも関われる環境も設けた。保護者も同学年の子と一緒に過ごすことを喜んでくれた。
子どもの養育の利益（各状況において具体的なもの）を捉えた支援ができた	5	製作や体をを使った遊びを取り入れる月齢に応じた内容にした。また、きょうだい児で参加されたご家庭には上の子とお母さんが参加しやすいように、下の子を預かった。ベビーマッサージでは第一子のママ認定の枠を設けたことで初めて参加するお母さんから「参加しやすい」という声をいただいた。
教育及び保育における活動に対する保護者の積極的な参加を促すことができた	5	ランチやクッキングファームでの活動を再開でき、内容も今年度利用者の様子に合わせて準備や計画ができた。
各家庭や園児、保護者等の状況に応じ、個別の支援が行えるよう努められた	5	発達面の相談等は家庭でもできる支援であれば、私たちが保育で行ってきた事や子育てをしてきた経験からアドバイスをし、それでは難しいという事に関しては一緒に考えるように努めた。
地域における子育て家庭の保護者等に対する支援が適切に実施された	4	園児の対応の際には、こども園について知識がないというご家庭には分かりやすく簡単に伝えるようにした。また一時預かりに関する質問も各家庭の必要性を考慮して話すようにした。

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた下記の項目について
創意工夫をもって実施することができたか？

5:たいへんよくできた 4:よくできた
3:できた 2:ややできなかった 1:できなかった

安全

	結果	備考（具体的なエピソードなど）
環境及び衛生管理		
室内の温度等の調整、換気、明るさ、音の大きさ等に配慮して、心地よく過ごせる環境を整えている	3	温湿度計の設置はしているが、冬の乾燥が強く湿度が低くなってしまっている。
消毒薬などは園児の手が届かない場所で保管、管理している	5	クラス内で使用している次亜塩素酸水は人害が無いと書かれている。他薬品に関しては施設管理をしている。
職員が感染症及び衛生管理に関する知識と適切な対応方法を日頃から身につけられるようになっている	4	感染症流行時には、園札での職員周知を行う。また年1回は研修を実施し対応の統一を図っている。
園外での活動の際には、使い捨てのマスクやエプロン、手袋等の使用や手洗いの徹底など感染防止のための処置を徹底している	5	感染物によって、使用する物品を使い分け感染拡大防止へ取り組んでいる。
園児や園児の食事介助の際には、手洗いや備品の消毒を行う等、衛生管理を十分徹底している	4	食事介助にて、子どもが変わる場合は介助前にアルコールにて手指消毒をしている。調乳担当は月1回検便実施。
全職員は自己の健康管理に留意し、感染源が疑われる場合には、自らが感染源にならないよう、適切に対処している	3	感染を疑う場合は、休みや早退などの対応とし、自らが感染源とならぬよう留意している。
食中毒の予防に向けて、日常的に、園児が清潔を保つための生活習慣を身に付けられるよう取り組んでいる	4	食前の手洗いをし、清潔に保てるよう声掛けをしているが、配膳の間に色々触れてしまうため習得できるよう今後も園児が必要。
食中毒が発生した場合に備えて、食中毒発生に関する対応マニュアルを作成し、全職員へ周知している	4	食中毒の内容と対応をまとめたマニュアルを作成している。献立のコラムにも食中毒に気を付けることを書き、保護者へ周知もしている。
事故防止		
日常の安全管理として遊具等の安全点検表を作成して定期的に点検している	5	毎朝環境整備の際に園庭・遊具の安全点検を行い園札にて情報共有をしている。
園外での活動に際して、工事箇所、交通量、その他の危険性について事前に把握し、安全な活動にできるよう努めている	4	園周辺での工事がある場合や危険箇所が見つかった場合は都度情報共有し安全な環境に努めている。
事故防止のため、日常どのような点に留意すべきかについて事故防止マニュアルを作成し、周知を図っている	5	職員がいつでも確認できるようマニュアルや遊具取り扱い・散歩コースを配信課事務室に常時掲載している。
日常的な事故予防として、ヒヤリ・ハットした出来事を記録、分析し、事故予防対策に活用している	5	安心安全会議にてヒヤリハットの集計・分析を行い周知している。また他園での事故事例や新しい物の導入前に検討会を行っている。
園庭、プール活動、水遊び、食事等の場面（重大事故が発生しやすいもの）について、その場面に応じた適切な対応を行っている	5	SIDSチェックを0・1歳対象に活用。水遊び前に導入前の検討、誤飲・CPA・アナフィラキシーに関する研修を年2回（うち1回は消防署と）実施している。
重大事故や不審者の侵入等の危機管理について、緊急時の対応マニュアルを作成し実践的な訓練等を通じて、全職員が把握できるように努めている	4	不審者対応マニュアルに準じて年6回（うち1度は警察指導のもと）訓練を行い対応について職員の理解を深めている。
災害への備え		
危険等発生時対応要領に基づき、災害等の発生に備えるとともに、防火設備、避難経路等の安全性が確保されるよう、定期的に安全点検を行った	5	防災組織図・用品の更新、外部業者による防災点検の実施等を行っている。
備品、遊具等の配置、保管を適切に行い、日頃から、安全環境の整備に努められた	4	備品等確認を定期的に行い、破損など見つかった場合は修繕交換を速やかに行っている。
危険等発生時対応要領に緊急時の対応の具体的内容、手順、職員役割分担、避難訓練計画等の事項を盛り込み必要に応じて改訂している	5	防災組織図を年に一度改訂している。
定期的に避難訓練等を実施している	5	毎月担当を決め「火災・地震・竜巻・水害・ミサイル」の避難訓練、防犯訓練を年に6回実施している。
避難訓練について、地域の関係機関や保護者との連携の下で行うなど工夫している	5	警察署・消防署の方に来園していただき実施・指導いただいた。また引き渡し訓練では、保護者の方の協力も得て実施することができた。
災害発生時の保護者等への連絡、子どもの引き渡しを円滑に行えるよう、連絡体制や各方法を決めている	5	引き渡しカードを活用し、引き渡し訓練を実施し毎年改善点を見つけ次年度へ反映している。
地域の関係機関との連携を図り、必要な協力が得られるよう努めている	5	警察署及び消防署来園の訓練では連絡も取り入れて、緊急時に必要な情報をスムーズに連絡できるよう取り組んだ。

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた下記の項目について
創意工夫をもって実施することができたか？

5：たいへんよくできた 4：よくできた
3：できた 2：ややできなかった 1：できなかった

健康

	結果	備考（具体的なエピソードなど）
健康状態や発育及び発達の状態の把握		
各園児の機嫌、食欲、尿色、活動性等を観察し、平常とは異なった状態かどうか注意を払っている	5	毎朝保護者に記載していただいている健康チェック表を活用し担任が活動状況も踏まえて子どもの様子の変化を把握している。
各園児の成長や罹患歴等に関する情報を保護者の理解を得て把握している（情報の取り扱いには秘密保持義務を果たすよう留意している）	5	園々に必要に合わせて面談にて情報を把握し担任へ伝え、情報は施設管理としている。
心身の機能の発達については、安易に予測や判断をしないよう努め（様々な要因の影響があるため）、丁寧な観察等を通して把握している	5	担任や臨床心理士、関係行政機関並びに保護者の意見も取り入れ総合的に把握している。
園児の心身の状態について、日々、必要に応じて保護者に報告し、留意事項なども必要に応じて助言している	4	必要に応じて心身状況について保護者に報告し留意事項等説明にあたっている。
健康増進		
保健計画を策定し、実施している	5	4月に立案、3月に振り返り、改善の必要な箇所は反映している。
健康診断を実施している	5	園児は年2回内科検診、年1回の歯科検診、職員は年に1回健康診断を行っている。
保育等への対応		
在園時に体調不良や傷害が発生した場合、保護者に園児の状況等を連絡し、適切な対応をとっている	5	ケガや疾病について都度保護者へ説明している。園の感染状況も踏まえて必要に応じて検査の検討を依頼している。
高熱、脱水症、呼吸困難、けいれんといった症状の急変や事故などには救急車として救急車の出動を要請するなど状況に応じて迅速に対応している	5	今年度は確認状態不良での搬送事例が1件あった。状況に応じて速やかに判断し対応している。
空気感染する感染症（水痘、麻疹、結核）が疑われる場合には、他の園児たちと離し、換気を行い、保護者に速らくし受診を促す	4	空気感染を疑う場合、速やかなお迎えと隔離ができるよう対応している。診断された場合は保護者周知している。
接触感染対策として適切な手洗いをし、正しい手洗いの方法を身につけるようにしている	3	手洗い指導や保育教諭の声掛けにて洗い残しがない方法を習得できるよう関わっている。
人の血液などを介して感染する感染症の予防として血液や体液（唾液、涙、尿、糞便等）などに触れる時には必ず使い捨て手袋を着用し手袋を外した後は流水と石けんで手洗いを行っている	3	感染性の物に触れる時は手袋着用・処理後手洗いは伝えているが、突発事例の場合手袋で対応してしまうことが多い（特に嘔吐・血液）
血液等が触れた場所は消毒している	5	拭き取り後、次亜塩素酸ナトリウムを用いて消毒している。
予防接種の場として、保護者より等にて情報提供を行っている	5	年に数回お便りを通じて周知、年一回の更新を通して母子手帳の確認をしてもらっている。
園児一人一人の予防接種歴や感染症の罹患歴を把握し、保護者等との情報共有に努めている	5	入園にあたっての保健アンケートや記入用紙更新のタイミングで必要に応じて声掛けを行っている。
感染症の疑いのある園児に対し、他の園児との接触がないよう配慮する等、適切な処置、対応をしている	3	必要に応じて適切な処理・消毒、別室対応を心掛けたが、事前に共有していることも多く感染症の流行に歯止めをかけることは難しい。
学校伝染病として定められた感染症に罹患した園児が登園を再開する場合、学校保健安全法に基づく出席停止期間を守っている	5	基本医師の指示の通りに出席停止期間を設けている。
園児に薬を与える場合、医師の診断及び指示による薬に限定し、医師名、種類、方法を具体的に記載した与薬依頼票を持参してもらっている	5	緊急時に加え与薬管理表及び薬清を添えてお預かりをしているが内服の実施に至らなかった。
園児から預かった薬については、施設管理する等、他園児が誤って内服しないようにしている	5	誤薬することのないよう高い位置の箱に名前をしっかりと明記した上で保管している。
AED講習を実施するなどし、救急蘇生法等に職員全員が理解できるようにしている	5	年に一度救命士を呼んで、急変からのAED・Eピベン使用などの救急蘇生法を実施している。
乳児は必ずあおむけで寝かせるなど、SIDSの危険因子が無いようにしている	5	SIDSチェック表を0・1歳児は活用し、仰向けで午睡できるよう関わっている。（SIDSについて年1度研修実施）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた下記の項目について
創意工夫をもって実施することができたか？

5：たいへんよくできた
4：よくできた
3：できた
2：ややできなかった
1：できなかった

食育

	結果	備考（具体的なエピソードなど）
園児が生活と遊びの中で食欲をもって食に関わる体験を積み重ねることを楽しみ食事を楽しむ園児に成長していくことを期待して食育に取り組むことができた	4	畑活動の中で食材に触れる機会が増えた。食育活動では作る工程を学んだり、目の前で調理する様子を見学した。その体験により食事を楽しむ様子がうかがえた。
食事の提供を含む食育の計画を作成し、指導計画に位置付けるとともに、その評価及び改善に努められた	4	園児の成長と共に良い食育活動ができるよう、担任と話し合うことで事前の活動内容を決め展開させることができた。
園児が自らの感覚や体験を通して自然の恵みとしての食材や食の循環・環境への意識、調理する人への感謝の気持ちがつよように園児と調理員等との関わりや調理室など食に関する環境に配慮できた	4	クッキングや畑の活動で、食物の育ち、調理の仕方を学び給食室の見学も行うことで、日々の給食がどう作られているかが体験できたと思う。
多様な関係者との連携や協働の下で、食に関する取組が定められた	4	クッキングや食育活動、ばんび組はラボなど保育教諭と連携して行うことができた。
一人一人の対応が適切に行えた	4	園児の様子を担任・保護者と共有し対応することができた。特に離乳食では咀嚼の様子を見てからステップアップすることができた。
食物アレルギー対応は、安全、安心な生活を送ることができるよう、完全除去を基本として園全体で組織的に行えた	4	部分除去ではなく食品の完全除去をすることで、食物アレルギー児が安心できるよう給食室・保育教諭と共に行うことができた。
園児一人一人の心身の状態等に応じ、保護者との相談や医師等の指示や協力の元に対応できた	4	医師の指示を受けたアレルギー児やその保護者の相談を受けて、除去等の対応ができた。
アナフィラキシーショックへの対応について、Eピベン使用方法を含めて理解できる取組が行えた	4	新人研修で説明し、別にEピベン使用方法についての講習の機会も設けている。給食室職員は専門家のアナフィラキシー等の研修を受けている。
食物アレルギー症状を誘発するリスクの高い食物を使わない等様々な配慮や工夫を行えた	3	使用禁止の食品は提供していない。アレルギー原因食材の他に誤嚥しやすい食品もカットして提供する等の対応をしている。
食を通した保護者への支援が行えた	3	献立表でのレシピの記載・インスタグラム等で発信することはできたが、他の支援はあまり行えなかった。

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた下記のこどもたちの姿になることを見据えて 創意工夫した働きかけができたか？

5: たいへんよくできた
4: よくできた
3: できた
2: ややできなかった
1: できなかった

ほんび

		結果	備考(具体的なエピソードなど)
満3歳以上の園児	(1) 心身の健康に関する領域「健康」		
	保育教諭等や友達と触れ合い、安心感をもって行動する	4	登園泣きをする子どもも少なく、一日の見通しを持って過ごすことができた。
	いろいろな遊びの中で十分に体を動かす	5	戸外遊びを十分にやり、運動遊びでは体の使い方が発達するよう内容を考えた。
	進んで戸外で遊ぶ	5	室内活動が好きな子もいるが、友達が楽しく戸外で遊ぶ姿を見て皆で戸外遊びを楽しめた。体を動かすだけでなく研究することを楽しむ子もいた。
	様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む	4	虫取り会では虫を捕まえて触れることができなくても観察を楽しむことができたように、自分なりに活動の中で楽しめることを見い出した。
	保育教諭等や友達と食べることを楽しみ、食べ物への興味や関心をもつ	4	野菜や果実などを育てたり、調理(クッキング)することで、よく味わいながら楽しく食事の時間が持てた。
	健康な生活のリズムを身に付ける	3	季節によって動と静のバランスをとり過ごした。
	身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を自分でする	5	自分で考えて行動できていた。食事量も自分で伝え、食べられる量を無理なく食べることができていた。
	とねの会なども園における生活の仕方を知り、自分たちで生活の備えながら長通しをもって行動する	3	個人差が大きい。生活の約束事はわかっているが、行動に結びつけることが難しいようであった。
	自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う	3	声をかけることにより手洗いがいを正しく行おうとする姿が見られた。鼻水は自らかめている。
	危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気をつけて行動する	4	防犯・避難訓練では落ち着いて担任の話を聞いて行動に移すことができた。
	(2) 人との関わりに関する領域「人間関係」		
	保育教諭等や友達と共通に過ごすことの喜びを味わう	5	気の合う友達を誘い合い、興味のある遊びに進んで取り組んでいた。
	自分で考え、自分で行動する	4	製作後に床にごみが落ちていたり気づいて掃除を始めていた。
	自分でできることは自分でする	4	食事をこぼしたら、自分から拭くことができる。
	いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ	3	運動会で一人ひとりが目標をたて、達成するまでの努力が見られた。
	友達と積極的に関わりながら喜びや楽しみを共有する	4	大きな行事、運動会では個々の意欲、意欲の差により葛藤する姿があった。協調性が育つにつれ友達と喜びを分かち合う姿がみられるようになった。
	自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く	3	自分の気持ちを伝えることはできるようになったが、援助がないと友達の気持ちに気がつき寄り添うことは難しいように感じる。
	友達のように気付き、一緒に活動する楽しさを味わう	5	集団に入るのが難しかった子どもも、友達と遊ぶことで遊びが展開できるように気付き集団遊びができるようになった。ルールのある遊びを子ども同士で進めて楽しんでいた。
	友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見いだし、工夫したり、協力したりなどする	4	夏まつり、キャンプ、運動会など様々な行事の中で、仲間と協力すること=楽しみや喜びに繋がることを感じていた。
よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する	4	良くない言葉や行動をしてみたら、注意することができていた。	
友達との関わりを深め、思いやりをもつ	4	友だち同士でトラブルを解決しようとしていた。時には保育教諭を仲介しながら交友関係を深めていった。	
友達と楽しく生活する中でできまりの大切さに気付き、守ろうとする	4	ジャンプリングで鬼ごっこをしてはいけない理由を話し合ったり、決まりがあることの大切さを知っていた。	
共同の道具や用具を大切にし、皆で使う	3	物を壊してしまったり、破ってしまった時には素直に言いに来ていたが、元あった所に綺麗にしまえない子どもも目立ってしまった。	
高齢者をはじめ地域の人のなどの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ	4	祖父母会を通した身内以外の方(友だちの祖父母)との交流であったり、散歩に行った際に通り返りの方に挨拶するなどしていた。	
(3) 身近な環境との関わりに関する領域「環境」			
自然に触れて生活し、その大きさと、美しさ、不思議さなどに気付く	5	フワフワドームにできた水を各々で採集し、友だちと比べて見たり、氷を通して空を見て「きれい、みてみて」と友だちに言ったりしていた。	
生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ	4	ラゴを遊ばせて水に浮く性質を知ると、ボールや水の葉等色々なものを水に入れ、何が浮くのか試す姿がみられた。	
季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く	4	四季折々の草花や果樹、動物園に触れ、ザリガニの成長を見守ったりその季節に合った果樹を使用し、ジャムやジュースを作ったりした。	
自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ	4	園庭で育ったオオムシを使って鬼ごっこしながら友だちにくっついたり、ドングリを使っておまごや転がっていく装置を作ったりしていた。	
身近な動物園に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする	5	散歩で捕まえてきたてんとう虫をレゴで作ったお家に入れていたり可愛がっていたが、他児が間違えて踏んでしまったり死んでしまった。みんなでお墓を作ったりして埋葬する。	
日常生活の中で、我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ	5	「おもてなし」について知る事により、日本文化の「おもてなしの心」が分かり保育参観会にておもてなしをすることができた。	
身近な物を大切に作る	4	卒園に向けてパンジーを植え、花芽を摘んだり毎日水やりをしたりし、成長を見守っていた。	
身近な物や道具に興味をもつ関わり、自分なりに出たり、開通付けたりしながら考えたり、試したりして工夫して遊ぶ	5	砂場で作っていたが、数名集まるとどっちが大きな山を作れるか争い合う。その後トンネルや川を作り山を中心に創作をしていた。	
日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ	4	製作等を通して色々な形を描いたり切ったりする事が興味を持つ。自由遊びの時にトランプで遊ぶ機会があり、形や図形を合わせるゲームで楽しんでいた。	
日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつ	4	散歩に出かける時に園のフェンスにある看板の一つずつみんなで見ながら「『と』は〇〇の『と』」等と結び付けていた。	
生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ	4	自分たちがよく食べるお菓子がどのように作られているか工場見学をする前に子どもたちで話し合い、疑問に思ったことを実際に確かめることができた。	
とねの会なども園内外の行事において園児に親しむ	5	運動会の万国旗作りをきっかけに国旗を園庭で調べる姿がみられた。また友だちとクイズ形式にして国名をあてていく姿が見られた。	
(4) 言葉の獲得に関する領域「言葉」			
保育教諭等や友達の言葉や話に興味や関心をもち、親しみをもって聞いたり、話したりする	4	朝の会等を通して、休日に何をしていたか発表したり、今日どんな活動をしたか発表することで他者の話を聞き、自分の意見も伝えようとしていた。	
したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する	5	保育参観会で得意な事を発表するにあたり、各々が得意な事について自分の言葉で発表することができていた。	
したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする	5	生活の中で徐々に自分のできない事など気持ちを伝えられるようになる。始めは「おかわり下さい」などの簡単な言葉で伝える事から始め、伝えるようになった。	
人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す	4	活動の中で保育教諭がやり方などを事前に話すとよく聞き、わからない友達に教えてあげている姿が見られた。	
生活の中で必要な言葉が分かり、使う	5	離尿をするにあたり、保育教諭に目的があって尿を離れることを等々きんと話せるようになってきた。	
親しみをもって日常の挨拶をする	5	朝の会、帰りの会、給食の前など挨拶をしっかりとしていた。おもてなし会以降、自分から挨拶する子が増えた。	
生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く	4	良い言葉、良くない言葉に自分で気づいたり、教えてもらったりしながら言葉を選んで使っていた。	
いろいろな体験を通してイメージや言葉を豊かにする	5	工場見学の事前準備では、子供らしい考え方をしていた。(チョコおぼじさんが手作業で付けている等)	
(5) 感性と表現に関する領域「表現」			
生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ	4	木の葉の色が変化していくことで四季を感じていた。	
生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする	4	花や虫といった自然に触れ、由にも命があることを知り大切に扱う姿が見られた。	
様々な出来事の中で、感動したことを伝え合ったり楽しむ	5	経験を通して自分の思いを出し返り、友達と共有することができた。	
感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする	5	自分の気持ちを手紙に書いて渡していたり、自然あそびで葉をお面に見立てて顔のパーツを描いたりしていた。	
いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ	4	各クラスに置かれた廃材を使い、紙や布などパーツを分けて作り上げる様子があった。	
音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったなど楽しむ	4	季節の歌や鍵盤ハーモニカで音楽に触れ、音のとり方や色々なリズムがあることを知れた。	
かいたり、つくったりすることを楽しむ、遊びに使ったり、贈ったりなどする	5	正月のだるまや、キャラクターの折り紙づくりなどに熱中し、オリジナルの作品を作っては部屋に飾っていた。	
自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう	5	ブロック遊びや砂場遊びでは、家族ごっこやお店屋さんごっこまで楽しんでいた。	

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた下記のこともたちの姿になることを見据えて 創意工夫した働きかけができたか？

5: たいへんよくできた
4: よくできた
3: できた
2: ややできなかった
1: できなかった

めだか

		結果	備考(具体的なエピソードなど)
満3歳以上の園児	(1) 心身の健康に関する領域「健康」		
	保育教諭等や友達と触れ合い、安定感をもって行動する	5	保育教諭や友達と親しみながら生活することで自分らしさを十分に発揮し充実感・満足感を味わうことができた。
	いろいろな遊びの中で十分に体を動かす	4	集ごっこやボール遊びなど友達と一緒に楽しむ姿があり、全身を使って満足感を得ることができた。
	進んで戸外で遊ぶ	5	戸外で十分に体を動かし、友達と一緒に活動する楽しさを知り、夢中で飛び込むことができた。
	様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む	5	こびと探では、友達と一緒に賞を仕掛けたり、こびと装置を設置していた。また、七五三や初詣ではこびと神社を設置し、作法を学ぶことができた。
	保育教諭等や友達と食べることを楽しみ、食べ物への興味や関心をもつ	4	友達に刺激を受け好き嫌いも減っている。また、ごちそうさまやおかわりの時間を意識するようになり、時間内で食べ終わるようになった。
	健康な生活のリズムを身に付ける	4	園と家庭で協力して「早寝、早起き、朝ごはん」を基礎として、体を動かすことにより体力が付き、充実した毎日を送れている。
	身の回りを清潔にし、衣類の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を自分でする	3	個人差が見られ、衣類の着替えではきれいにためる子もいたが、汚した衣類を丸めたままロッカーに入れてしまった子もいた。
	とねの会なども園における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見直しをもって行動する	4	「表い針が3になったら…」などと声掛けをすることで時計を気にかけ、決められた時間内で行動しようとする姿が見られた。
	自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を選んで行う	4	手洗いやうがい・歯磨きなど衛生習慣の目的や正しいやり方を繰り返し伝えることで意識をもたせるようになった。
	危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する	4	「お・か・し・も・ち」や「い・か・の・お・す・し」などの約束事を知って、訓練では自分の身を守ろうと真剣に取り組んでいた。
	(2) 人とのかかわりに関する領域「人間関係」		
	保育教諭等や友達と共に過ごすことの喜びを味わう	5	仲間意識が芽生え、相手を思いやる行動ができるようになった。当番活動なども積極的に取り組み人の役に立とうとしていた。
	自分で考え、自分で行動する	4	自分の意思で判断をし、遊びや活動に参加することができた。それに伴い責任感も強くなっていった。
	自分でできることは自分でする	4	自分のことは自分でしようという意欲が増している。個人差もあるが思いだもたむ、身のまわりを整えることが自然とできるようになった。
	いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ	4	鉄棒の上上がりや縄跳び、うんていなど、友達に刺激を受け挑戦するという意欲が増している。友達同士でコツを教え合う姿がある。
	友達と積極的に関わりながら喜びや悲しみを共感し合う	4	リレーでは勝ち負けを経験したが、勝っても負けても最後まで諦めない力を身につけることができ、それを友達と共有することができた。
	自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く	4	様々な活動を通して、相手の思いを知り、そこからどうして行けば良いのかを友達と一緒に考え、やり遂げようとする姿が見られた。
	友達のをよきに気付き、一緒に活動する楽しさを味わう	4	開腹や体操などでお互いに支え合ったり、コツを教え合うことで失敗してもまた頑張ろうという前向きな気持ちになっている。
	友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどする	5	友達の合う友達とごっこ遊びをする中で状況に応じ役割を交代したり、遊びに必要な道具や基地を作ったりと工夫する姿が見られた。
	よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する	4	自分で考え、行動できるようになったが、人に流されたり、悪いことわかっていても友達と一緒にふざけてしまう子もいた。
	友達との関わりを深め、思いやりをもつ	4	異年齢交流を通して、年下の友達に対する声のかけ方や振舞い方を知ることができた。
	友達と楽しく生活する中でまじりの大切さに気付き、守ろうとする	4	園生活のルールを理解し、友達が禁止されている行動をとるとやっではない理由を伝え、別の遊びにきき姿が見られた。
	共同の道具や用具を大切に、皆で使う	3	製作活動では、みんなで使うセロハンテープやボンドなどの共有物を大切に使うよう促していた。しかし、無駄にしてしまう子も見られた。
	高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ	3	散歩に出かけた際は積極的に挨拶やコミュニケーションを図ることで地域の方との触れ合いの場が広がった。
(3) 身近な環境との関わりに関する領域「環境」			
自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く	4	毎日のように戸外に出て遊ぶことで季節の変化に気付き身近な植物や空を見て気付いたことを伝えてくれた。	
生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ	4	実験を通して様々な不思議なことを知り、試して興味や関心を持つことができた。	
季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く	3	散歩や生活を通して季節の移り変わりに気付き、暑い時期の過ごし方を知り生活することができた。	
自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ	4	水遊び・秋の自然遊びでは、友達と関わりながら雨傘をつなげたり、自然物をおまごに取り入れ遊ばし姿が見られた。	
身近な動物に触れ親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわり、大切にしたりする	4	保育室でザリガニの赤ちゃんを育てることで生命の尊さに気付き、成長を見守ったり観察することができた。	
日常生活の中で、我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ	4	四季折々の伝統行事や行事食を知り、文化や伝統に親しむことができた。	
身近な物を大切に	4	友達と一緒に遊んだ物を丁寧に片付けたり、学期ごとに自分の使っている物を掃除したり、室内を雑巾を使って綺麗にした。	
身近な物や道具に興味をもつ関わり、自分なりに比べたり、関連付けたりしながら考えたり、試したりして工夫して遊ぶ	4	身近な物や道具を見つけて、パズルの中に遊びや細工を工夫しながら作る姿があった。また、興味深いものを遊びに取り入れていた。	
日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ	3	製作を行う中で数を伝えたり、どんな形なのか問いかけが切った事で図形に関心を持つことができた。	
日常生活の中で簡単な図形や文字などに関心をもつ	4	文字のあるポスターを貼ったり、カルタ遊びを行うことで自然と文字に関心を持つことができた。また、こびとポストを設置したことで手紙のやり取りが続いている。	
生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ	3	消防車やパトカーを実際に見たり消防活動をする姿を見学し、興味を持つことができた。	
とねの会なども園内外の行事において国旗に親しむ	3	絵カードを使ったり、様々な国旗の塗り絵を行う事で友達と遊びながら色々な国旗の国旗に親しむことができた。	
(4) 言葉の獲得に関する領域「言葉」			
保育教諭等や友達の言葉や話に興味や関心をもち、親しみをもって聞いたり、話したりする	4	デイリースケジュールや活動のポイントを分かりやすく伝えることで興味をもって聞くことができたり、友達との会話のやり取りも盛んになっている。	
したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する	4	実験遊びを通して思考力が育ち、考えたことを自分なりの言葉で発言できるようになる。	
したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分かったことを尋ねたりする	4	友達との関わりの中でうまく言葉で伝えられない時があるが、場面に応じた言葉を提案したり一緒に考えたりしながら援助した。	
人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す	3	言葉の伝え合いが盛んになる。一方的に自分の話をするのではなく友達の話を聞き返られるようになった。	
生活の中で必要な言葉が分かり、使う	3	体調不良時や困った時など自ら伝えられるよう知らせることで、自分なりの言葉で保育教諭に伝えることができるようになった。	
親しみをもって日常の挨拶をする	4	日々の生活の中であらゆる場面ですれ違った挨拶を知らせていくことで、子供たちから自然と挨拶することが増えた。	
生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く	3	沢山の言葉を習得し、コミュニケーション能力が上っている。言葉の楽しさや美しさを考えて使っている様子が見られる。	
いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする	3	林みつけや行事のあは振り返り、意見を伝え合う場をこまめに設け、表現力の育ちにつなげた。	
(5) 感性と表現に関する領域「表現」			
生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ	5	水・泥・氷・葉・枝などの自然物を使い、素材の違いに気付きながら遊びこみ、五感を育みながら楽しむことができた。	
生活の中で楽しいものや心を動かす出来事や出来事、イメージを豊かにする	4	育てた野菜の生長に期待をもち、喜びや満足感が得られるよう声掛けした。散歩では四季折々の変化の気づきに共感していくようにした。	
様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう	4	朝の会、活動後などの振り返りの時間で発表しやすい雰囲気作りを心掛けていくことで積極的に発言する姿が増えた。	
感じたこと、考えたことなどを言葉や動きなどで表現したり、自由にいかたり、つくったりなどする	3	一年を通して題材遊びを行い最初どうやっていいかわからなかったが、自分のイメージを形にすることを集中して考えていた。	
いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ	5	砂場遊びでは、自然物を組み合わせ、友達と共に想像力を働かせながら遊びを広げていたの十分遊び込む時間を設けた。	
音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなど楽しむ姿を味わう	5	季節感が味わえる歌を歌ったり、和太鼓の活動では音の楽しさを感じながら楽しんでリズムを打つことができた。	
かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする	4	夏まつりのブースの飾りや、卒園式の装飾等を目的をもって製作し、身近な人が喜んでくれる嬉しさを感得していた。	
自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう	4	ごっこ遊びが盛んになり、役になりきってやり取りを楽しむ遊びの広がりが必要な材料の要望を聞いて展開への援助を行った。	

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた下記のこともたちの家になることを見据えて 創業者工夫した働きかけができたか？

- 5 : たいへんよくできた
- 4 : よくできた
- 3 : できた
- 2 : ややできなかった
- 1 : できなかった

ひばり

		結果	備考(具体的なエピソードなど)
3歳以上 の 関 心	(1) 心身の健康に関する領域「健康」		
	保育教諭等や友達と触れ合い、安心感をもって行動する	5	スキンシップや声掛けを多く取れるように心掛け、子供たちが安心できるよう配慮をした。
	いろいろな遊びの中で十分に体を動かす	5	集団遊びをはじめ、鉄棒、平均台、マット等を使ったり、リレー、中当て、しっぽ取り等ゲームのある遊びも取り入れバランスよく遊びを行えた。
	進んで戸外で遊ぶ	5	寒い日や風の強い日でも、時間を決め短時間で戸外に出て体を動かせる時間を設け、寒さに負けない体作りをした。
	様々な活動に楽しみ、楽しんで取り組む	4	戸外や室内でも、様々な活動を取り入れ、子ども達が楽しめるように導入や声掛けを行うことで集中して活動が取り組めた。
	保育教諭等や友達と食べることを楽しみ、食べ物への興味や関心をもつ	4	自分たちの手で野菜を育てることで色や形に興味を持ち、食べ物の大切さ、食べられることの嬉しさを味わえるようになった。
	健康な生活のリズムを身に付ける	5	運動・食事・排泄・休息等の生活リズムが身につくように声掛け等を行い、その都度伝えてきた。
	身の回りを清潔にし、衣類の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を自分でする	4	子供たちが自分で動けるよう声掛けをし、必要に応じて援助をした。上着等はチャックを自分で閉められるよう練習をしてきた。
	とねの会なども園における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見直しをもって行動する	4	生活リズムを覚え、子供たちが次の行動の見直しを持ってような声掛けを行い、保育教諭の促しが無くて行動する姿があった。
	自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を自分で行う	4	感染症や予防についての話をその時でも設け、戸外から戻った時や給食前等手洗いがい徹底して行うことができた。
	危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する	4	危険な場所や遊びについてはその都度話をしてきた。また、避難訓練等で逃げ方を知り安全に行動ができるよう伝えていた。
	(2) 人との関わりに関する領域「人間関係」		
	保育教諭等や友達と共通に過ごすことの喜びを味わう	5	子供たちが主体になるように、保育教諭も一緒に遊びを楽しみ関わった。
	自分で考え、自分で行動する	4	子供たちが自分自身がつけるような声掛けを心掛けてするようにした。
	自分でできることは自分でする	5	すぐに「出来ない」等あきらめず、まずは自分で頑張るようにその都度伝えてきた。
	いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ	3	自分の好きな遊びが見つけれられるように遊びを提供したり、段階に応じて課題を与え意欲が高められるようにした。
	友達と積極的に関わりながら喜びや楽しみを共感し合う	4	言葉数が増えたとことで相手の立場を考え、相手の気持ちに共感した関わりが持てるようになった。
	自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く	3	トラブルがあった際には、保育教諭が仲介役等をし相手の思いに気付くように支援した。
	友達とよく付き合え、一緒に活動する楽しさを味わう	4	コーナー遊び等を意識すると自然と自分の好きな遊びが集まった仲間と楽しく遊んでいた。
	友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見いだし、工夫したり、協力したりなどする	4	元山では、タイヤの上から飛び降りる遊びを自分たちで考えていた。少し勇気が必要な遊びをお互いに励まし合いながら挑戦していた。
よいことや悪いことがあることに気付く、考えながら行動する	4	園生活の中でよいことや悪いことの区別がつくようになりやよい例や言葉を用い伝え、よいことに対して称賛してきた。	
友達との関わりを深め、思いやりをもつ	4	仲の良い友達と遊ぶ中で、友達の立場や気持ちに気づき、思いやりの気持ちを持てるようになってきた。	
友達と楽しく生活する中でまじり合いの大切さに気付く、守ろうとする	5	保育教諭の発信ではなく園生活、遊びの中で子供たちの中からまじり合いが生まれ、自分の中で守ろうとする姿があった。	
共同の道具や用具を大切に扱い、皆で使う	3	遊んでいる際に床に落ちている玩具等にすぐ気付くように伝えたり、率先して片付けをするように声掛けをしている。	
高齢者をはじめ地域の様々な人々の自分の生活に関係の深いいろいろな人々に親しみをもつ	4	散歩中に外出地域の方々や高齢者へ元気な挨拶ができるように挨拶の大切さを日頃より伝えていた。	
(3) 身近な環境との関わりに関する領域「環境」			
自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く	4	年間を通して天気やテーマに活動をしてきた。実験遊びを通して子ども自身で楽しさに気づいたり、実際に触れる経験ができた。	
生活の中で、様々な自然に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ	4	自然物に触れる機会を多くしたことで興味関心を持ち、面白さを知ることができた。	
季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く	4	夏の暑い時は暑い中で、冬の寒い日は寒いなどの生活の仕方や遊びを知ることができた。	
自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ	5	春・夏・秋・冬と保育室前で植物を育てたり、自然物をままごと等にも使い取り入れて遊べる環境設定であった。	
身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊厳に気付く、いたわりたり、大切にしたりする	4	自分たちで育てている植物の世話では、水やり等を率先して行う姿が見られた。	
日常生活の中で、我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ	4	年中行事を通して製作やゲーム、活動の中で自然に伝統文化に親しめていた。	
身近な物を大切に扱う	4	特に物の管理の仕方については、なぜ大切にすることを子どもに対して保育教諭が言葉かけで伝えていた。	
身近な物や遊具に興味をもって関わり、自分なりに比べたり、関連付けたりしながら考えたり、試したりして工夫して遊ぶ	4	コマ遊びのようにしたら長く回ることが出来るのか、子供達なりに既行錯誤して遊ぶ姿が見られた。	
日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ	4	数量は数字の数で数について興味を持ち、図形は製作に取り入れて親しむことができた。	
日常生活の中で簡単な標識や文字などに興味をもつ	3	身近に標識があまりなく、文字については興味のある子が読めたり、文字に似たものを描いて楽しんでいた。	
生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ	4	天気について、視覚的に天気マークを貼り、見ていく中で個々の気付きや関心に広がられたと思う。	
とねの会なども園内外の行事において積極的に関与する	2	園外に関してはあまり触れる機会は無かったが、運動会で年長児の作った園旗に興味を持つ子もいた。	
(4) 言葉の獲得に関する領域「言葉」			
保育教諭等や友達の言葉や話に興味や関心をもち、親しみをもって聞いたり、話したりする	4	朝や帰りの会等で当番に質問したり、一人一言言葉の機会・時間を作ることで親しみをもち聞こうとする子もいる。	
したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する	4	点呼の後に、みんなに知らせたいことを言葉で表現することで少しずつ自分の言葉で表現する子が増えていった。	
したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分かったことを自分なりに言葉で表現する	4	どのような言葉で伝えたら良いか代弁したり、教えたりすることで言葉を知り伝えられる子が増えた。	
人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す	3	話を聞く時間と話をして良い時間を区別できるように声を掛けた。相手への伝え方も代弁することで自ら伝えられる子も増えた。	
生活の中で必要な言葉が分かり、使う	5	挨拶や物の貸し借り等、友達や保育教諭との関わり、生活の中で必要な言葉が自分で覚えて伝えられることができた。	
親しみをもって日常の挨拶をする	4	挨拶をする時には、相手の方を見ようとする意識を持って元気に挨拶出来る子が多い。	
生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く	4	見たり触れたりしたものをオノマトペで表現したり、「〜みたい」と例えたりすることが多く、言葉での表現の楽しさを味わっている。	
いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする	4	今までの経験と結び付けたり、友達の言葉の表現に共感したりして体験したことでの表現の仕方を覚えてきた子が増えた。	
(5) 感性と表現に関する領域「表現」			
生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ	5	誕生会の実験で、重曹や片栗粉、氷等、様々な物の色や形、感触を実際に触れて確認し、楽しむ姿が見られた。	
生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする	4	雪が降った時に、顕微鏡で観察すると「お花みたいできれい」と自分の知っている美しい物と結びつけて、イメージを広げることができた。	
様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう	4	行事や活動の後に、感想(楽しかったこと等)を開き、共有する時間を設けて伝え合えるようにした。	
感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする	4	行事ごとに思いつく限り取り組んできたので、体験して感じたことを自由に描き、表現する経験を重ねることができた。	
いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ	4	廃材遊びが好きで、空き音筒やトレットペーパーの芯等を自分たちで考えて組み合わせ想像した物を作ることを楽しんでいた。	
音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなど楽しむ	5	季節の歌では、歌詞を覚え元気に歌い楽しんでいる。特に「にじ」が好きで、子供たちからのリクエストも多い。	
かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする	4	折り紙や絵描き、廃材遊びが好きで廃材でアイスやドーナツを作り、おまごを飾ったり、作ったものをお土産にして楽しんでいる。	
自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう	2	実験遊び等で触れたり見たりした物についてのイメージを言葉にして表現し、友達と伝え合うことができた。	

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた下記のこともたちの家になることを見据えて 創意工夫した働きかけができたか？

- 5: たいへんよくできた
- 4: よくできた
- 3: できた
- 2: ややできなかった
- 1: できなかった



年齢	評価	備考(具体的なエピソードなど)	
満1歳以上 満3歳未満の園児	(1) 心身の健康に関する領域「健康」		
	愛情豊かな受容の下で、生理的・心理的欲求を満たし、心地よく生活をする安定感をもって生活をする	4	保育教諭とのコミュニケーションをたくさん取ることで、情緒が安定し愛情豊かな受容の下で過ごせていた。保育教諭との関わりを多く持つことで、保育教諭に慣れ、生理的・心理的欲求を満たせる環境にした。
	食事や午睡、遊びと休息など、とねの会ごとにも園における生活のリズムが形成される	4	食事や午睡の時間を毎日同じ時間にするなどで、園生活のリズムが形成され、十分な睡眠時間が取れていた。主活動時に遊びの時間と休息の時間を取り入れて、静と動を分けて十分な休息も取れるようになった。
	走る、跳ぶ、登る、押す、引っ張るなど全身を使う遊びを楽しむ	3	うさぎ組から滑り台やジャングルジム、元気山などの活動を取り入れることで、体全体を使う遊びを楽しみながら腕力や握力等、様々な筋力の向上ができた。
	様々な食品や調理形態に慣れ、ゆったりとした雰囲気の中で食事や間食を楽しむ	3	苦手な物も一口でも頑張れるような声かけをし、様々な食品に触れることができるようにした。子供たち同士の話も楽しめるように、グループごとに食事をし、ゆったりとした雰囲気の中で食事を楽しそうに環境を整えた。
	身の回りを清潔に保つ心地よさを感じ、その習慣が少しずつ身に付く	3	戸外から帰ってきた後や、トイレ後の手洗いや声掛けを行い、清潔に保てるようにした。他にも衣類が汚れてしまったら着替えた、汗をかいたら着替えるなど着脱の仕方なども伝えながら身の回りのことを自分でできるように促していった結果、一人でできるようにいった。
	まわりの人の助けを借りながら、衣類の着脱を自分でしようとする	4	衣類の着脱の仕方は徐々に分かっていくようになり、一人でできるように促すことにより一人で着脱が行える子がほとんどになる。また、一緒に前後の履き替え保育教諭に指導されると言うことができる。
	便器での排泄に慣れ、自分で排泄ができるようになる	4	一人一人に合ったペースでトイレトレーニングを進めていき、時間を見計らってトイレへ促していった。ほとんどの子が、午睡時も含めて一日トレーニングパンツで過ごせるようになった。
	(2) 人との関わりに関する領域「人間関係」		
	まわりの人との安定した関係の中で、共に過ごす心地よさを感じる	3	初めての保育教諭や、新しい保育室に慣れてもらうようゆっくりと過ごしたり、1対1の関わりを持てるようにした。慣れてくると子供の活動も広がり、安心して遊んでいる様子が見られた。
	保育教諭等の受容的・応答的な関わりの中で、欲求を適切に満たし、安定感をもって過ごす	4	自信がなく、自分の思いを伝えることが苦手な子や、新入園児でなかなか緊張が取れなかった子に対し、ゆっくりと関わるようにした。次第に本児からの発言や笑顔が多く見られるようになった。
	身の回りに様々な人がいることに気づき、徐々に他の園児と関わりをもつて遊ぶ	4	連絡し、行事にも参加するようになったことで、クラス以外の園児の活動もよく見られるようになった。どんな活動をしているのか興味を持ち、保育室に戻るや友達と真似をしたり遊びにもつながる場面があった。
保育教諭等の仲立ちにより、他の園児との関わり方を少しずつ身に付ける	3	最初の頃は一人遊びをしている子がほとんどだったが、少しずつ周りに気づき、他児を意図するようになった。集団遊びやおまごを取り入れることで友達との関わりも増えてきた。	
とねの会ごとにも園生活の仕方に慣れ、まわりが気になることや、その大切さに気づく	3	子供一人に切り替えができ、長期の休み明けでもすぐに園生活に戻ることができる。室内で走るなど危ないことや声の大きな音に注意できるように促している。引き続き意識できるように声掛けが必要。	
遊びや生活の中で、自分の身近な人の存在に気づき、親しみの気持ちを表す半長尺や保育教諭等の真似をしたり、ごっこ遊びを楽しむ	4	車園庭に行った際の一つ上の学年の園児と同じ場所でおどろ、真似をしてみたり、一緒に遊んでもらうことで遊び方も変化が見られた。	
(3) 身近な環境との関わりに関する領域「環境」			
安全で活動しやすい環境での探索活動を通して、見る、聞く、触れる、嗅ぐ、味わうなどの感覚の働きを豊かにする	4	散歩に出かけた際には、子供達自信で身の回りには花や虫などの自然物を発見し、喜ぶ姿が見られた。また1-2月にかけては氷遊びや雪遊びをすることで氷を触り「冷たい」と言ったり、雪の感触を楽しむことができた。	
玩具、絵本、道具などに興味を持ち、それらを使った遊びを楽しむ	5	活動の前や制作等導入で絵本を用いることで物の名前を覚え、実際に探しに行ったりした。戸外遊びでは保育教諭と一緒に遊ぶことで道具に興味を持ち、友達と一緒に楽しく遊ぶ様子が見られた。正しい使い方を伝えながら玩具で遊び、徐々にごっこ遊びまで展開することができつつある。	
身の回りの物に触れる中で、形、色、大きさ、量などの物の性質や仕組みに気づく	3	歌や絵本を通して、色や名前、大きさの比較ができるようになった。好きな色を答えたり、簡単な形の見本や描き方を伝えることで自分で描いてみようとする姿が見られた。今度は「量」を理解できるように分りやすく水等を用いて伝えていく。	
自分の物と人の物の区別や、場所の感覚など、環境を捉える感覚が育つ	4	自分のマークを各場所に付けることで所持品の絵本や身支度ができるようになってきた。自分のロッカーから必要なものを出したり、片付けることができた。また、自分の物だけでなく友達のものを見え、解りの支度を手伝おうとする場面も見られた。	
身近な生き物に気づき、親しみをもち	3	クラスで野菜を育てたり、ザリガニのお世話をする中で生き物の大切さに気づき親しみが持っていた。水やりをしたり、エサをあげたりすることで責任感が芽生え、一生懸命育てようとする姿が見られた。	
近隣の生活や季節の行事などに興味や関心をもつ	5	運動会やハロウィンパーティー、クリスマス、部分など各行事の時期に行事につながる歌やダンスを取り入れることで意欲を高めた状態で参加することができた。各行事をやる意味を伝えることでさらに興味を持つことができていた。	
(4) 言葉の獲得に関する領域「言葉」			
保育教諭等の受容的関わりや話し掛けにより、自ら言葉を使おうとする	4	遊びの中で、コミュニケーションをとっていくことで子供たち自身からの発言が増えた。	
生活に必要な簡単な言葉に気づき、聞き分ける	4	「ごめんね」や「ありがとう」など生活に必要な言葉を伝えることで友達に対して自ら「ありがとう」と言う姿が見られた。	
親しみをもって言葉の挨拶に応じる	4	意図してきた子に「おはよう」と声をかけることで、子ども自身から「おはよう」と返す姿が見られた。	
絵本や紙芝居を楽しみ、簡単な言葉を繰り返したり、模倣をしたりして遊ぶ	3	午睡前に絵本や紙芝居を読むことで言葉を真似してみたりする姿が見られた。	
保育教諭等とごっこ遊びをする中で、言葉のやり取りを楽しむ	5	保育教諭が遊びに入ることで、子どもの方から話しかけてくるが増えた。	
保育教諭等を仲立ちとして、遊びや生活の中で友達との言葉のやり取りを楽しむ	4	保育教諭も一緒に遊びながら、友達同士のやり取りができるような声掛けを行うことで友達とのやり取りも増えた。	
保育教諭等や友達の言葉や声に興味や関心をもって、聞いたり、話したりする	3	話に興味や関心をもって聞くことができるように、話を聞く姿勢になってから話をはじめることでも話聞くことができた。	
(5) 感性と表現に関する領域「表現」			
水、砂、土、紙、粘土など様々な素材に触れて楽しむ	4	水遊びや泥ごっこを行うことで、水と砂や泥を混ぜた時の感触の違いに気づいたり、友達同士で楽しんでた。	
音楽、リズムやそれに合わせた体の動きを楽しむ	4	毎朝体操を行うことで、保育教諭の真似をしながら友達とも楽しんで踊ることができた。	
生活の中で様々な音、形、色、手触り、動き、味、香りなどに気づいたり、感じたりして楽しむ	3	戸外遊びに行く際、給食室から匂いしてくると「いい匂いがある」と言う子に対して「給食の匂いかな?」「今日は何だろうね?」と返答し、楽しみながら話をするようになった。	
歌を歌ったり、簡単な手遊びや全身を使う遊びを楽しんだりする	3	絵本や紙芝居を読む前に手遊びを行い、子ども自身も楽しんでいる。日常の中でも友達と一緒に手遊びを楽しむ姿が見られた。	
保育教諭等からの話や、遊びや生活の中での出来事を通してイメージを豊かにする	3	制作では、作る前に絵本を見せたり、また行事の制作時には絵本を題材とした制作に対するイメージを持てるようにした。事前にイメージを持って制作に取り組むことができた。	
遊びや生活の中で、興味のあることや経験したことなどを自分なりに表現する	3	帰りの会の時間に、今日やったことを子ども達と振り返ることで、「OOが楽しかった」とみんなの前で発表している子もいた。	

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた下記のこともたちの姿になることを見据えて 創意工夫した働きかけができたか？

5：たいへんよくできた
4：よくできた
3：できた
2：ややできなかった
1：できなかった

ちどり

	結果	備考(具体的なエピソードなど)	
満1歳以上満3歳未満の児	(1) 心身の健康に関する領域「健康」		
	愛情豊かな受容の下で、生理的・心理的欲求を満たし、心地よく生活をする安定感をもって生活をする	5	一人ひとり、丁寧な関わりを持つことで保育教諭と信頼関係が築かれ、その子に応じた声掛けをしたり、欲求を受け止めることで安心して過ごせるようにした。
	食事や午睡、遊びと休息など、とねの会なども園における生活のリズムが形成される	5	天気の良い日には戸外へ出掛け、様々な遊びを通して体を動かすことができ、食事や午睡が十分に行えるよう配慮した。
	走る、跳ぶ、登る、押す、引っ張るなど全身を使う遊びを楽しむ	5	遊びの中で運動遊びを取り入れ、繰り返し行うことで体を動かす楽しさを伝えることができた。
	様々な食品や調理形態に慣れ、ゆったりとした雰囲気の中で食事や間食を楽しむ	4	その日のメニューについて話すことで、関心を持てるようにした。また苦手な食材を一口でも頑張って食べられるよう個々に合わせた援助を行った。
	身の回りを清潔に保つ心地よさを感じ、その習慣が少しずつ身に付く	4	手を洗う習慣が身に付き丁寧に洗うことができる。子どもたちの「ピカピカ」の声に共感をし、清潔にする気持ち良さを感じられるようにした。
	まわりの人の助けを借りながら、衣類の着脱を自分でしようとする	5	自分でやってみようと思えるような声掛け・さりげない援助をし、自分でできたという達成感を味わえるようにした。
	便器での排泄に慣れ、自分で排泄ができるようになる	4	便座やオマールに座れるような安心できるような雰囲気作りをし、個々に応じたトイレトレーニングを行った。
	(2) 人との関わりに関する領域「人間関係」		
	まわりの人との安定した関係の中で、共に過ごす心地よさを感じる	5	日々保育教諭や友達と生活を共にし、信頼関係を築いていくことで安心して過ごすことができた。
	保育教諭等の受容的・応答的な関わりの中で、欲求を適切に満たし、安定感をもって過ごす	5	子どもたちの要求に応じて気持ちを受け止めていくことで、自分を認めてもらうことができ、満たされて過ごすことができた。
	身の回りに様々な人がいることに気付き、徐々に他の関わりをもつよう遊ぶ	4	園生活の中で、様々な人と関わりが持てるようになり、生活や遊びの中で友達への興味、関心がもてるよう援助した。
	保育教諭等の仲立ちにより、他の関わりとの関わり方を少しずつ身に付ける	4	友達との関わりも増え、トラブルも多く見られてきた為、気持ちを代弁したり仲立ちをすることで友達との関わりも身に付いてきた。
	とねの会なども園の生活の仕方に慣れ、まわりがあることや、その大切さに気付く	4	園生活の中で、約束事があることを丁寧に話し、その大切さについて伝え自分で気づくことができるよう関わった。
	遊びや生活の中で、自分の身近な人の存在に気付き、親しみの気持ちを表す年長児や保育教諭等の真似をしたり、ごっこ遊びを楽しんだりする	4	おままごと遊びやぬいぐるみ遊びをする中で、身近な存在に気付けるようにした。また、様々な行事を通して年長児の姿を見て真似をして遊ぶ姿が見られた。
(3) 身近な環境との関わりに関する領域「環境」			
安全で活動しやすい環境での探索活動等を通して、見る、聞く、触れる、嗅ぐ、味わうなどの感覚の動きを豊かにする	4	実際に見たり、触れたりすることで、さらなる興味も湧き、感じたことを言葉で伝えようとしている。	
玩具、絵本、道具などに興味をもち、それらを使った遊びを楽しむ	5	保育室には常に玩具・絵本を用意し、自ら好きな遊びを見つけ取り入れられるようにした。好きな玩具等があることで見立て遊びやごっこ遊びを友達と楽しむことができた。	
身の回りの物に触れる中で、形、色、大きさ、量などの物の性質や仕組みに気付く	4	日々の何気ないやりとりや絵本の読み聞かせの中で、物の性質や仕組みに気付けるようになってきている。	
自分の物と人の物の区別や、場所的感覚など、環境を捉える感覚が育つ	4	各自のマークを用意し、視覚的に自分の物と人の物を区別できるよう配慮した。	
身近な生き物に気付き、親しむをもつ	5	散歩の途中で虫や猫など生き物を見つけると嬉しそうに保育教諭に知らせた。また秋にあった移動動物園では、怖がりながらも子ども自ら積極的に触れ、親しみを持っていた。	
近隣の生活や季節の行事などに興味や関心をもつ	4	園外遊びに参加したり、室内の壁面や製作活動を通して、興味や関心を持つことができた。	
(4) 言葉の獲得に関する領域「言葉」			
保育教諭等の応答的な関わりや話し掛けにより、自ら言葉を使うようになる	3	遊びの中での「どうぞ」や、生活の中で使う簡単な言葉・約束事を中心に、保育教諭とのやりとりから少しずつ言葉を覚えはじめ、自ら自分の気持ちを伝えられるようになってきた。	
生活に必要な簡単な言葉に気付き、聞き分ける	4	室内遊びの際の約束事で、「お友達が使っている玩具を貸してほしい時には何て言ったらいい？」と問いかけると、子どもたちが「貸して」と言う姿が見られた。また、玩具の貸し借りのトラブルの際には、「取ってごめんね」や「ありがとう」などと言葉を理解して発している。	
親しみをもって日常の挨拶に応じる	4	朝の会や集まりの会、食事の前や登降園時に挨拶をすることで、子どもから「おはよう」「はいはい」などと伝えようとする姿が見られるようになった。	
絵本や紙芝居を楽しみ、簡単な言葉を繰り返したり、模倣をしたりして遊ぶ	5	絵本の読み聞かせの時間を設けることで、絵本の内容を伝えたり、言葉を模倣するなどして、物語を楽しむことができた。	
保育教諭等とごっこ遊びをする中で、言葉のやり取りを楽しむ	4	ままごと遊びでは「どうぞ」「もぐもぐおいしいね」「大盛り」など、友達や保育教諭とのやりとりを楽しみながら遊ぶ姿があった。	
保育教諭等を仲立ちとして、遊びや生活の中で友達との言葉のやり取りを楽しむ	4	友達との遊びの中で「一緒にやろう」と誘ったり「貸して」と頼むなど、言葉でのやりとりを促されると、子ども同士で相談したり、やりとりする姿が見られた。	
保育教諭等や友達の言葉や話に興味や関心をもって、聞いたり、話したりする	4	話を聞く場面では、手遊びなどで興味をひき、集中して話を聞けるようにした。子どもの話にも耳を傾けることで、保育教諭と応答しながら「話す・聞く」が出来ている。	
(5) 感性と表現に関する領域「表現」			
水、砂、土、紙、粘土など様々な素材に慣れて楽しむ	5	活動の中で砂遊びや折り紙などを多く取り入れ、様々な素材や感触が楽しめるように工夫をした。また水遊びでも子どもたちが興味を持っているものを取り入れ、楽しく活動できるようにした。	
音楽、リズムやそれに合わせた体の動きを楽しむ	5	毎朝、体操の時間を設けることで子どもたちも音楽に合わせて体を動かす楽しさを味わいながら取り組むことができた。季節の歌にも振りをつけ、楽しみながら覚えられるようにした。	
生活の中で様々な音、形、色、手触り、動き、味、香りなどに気付いたり、感じたりして楽しむ	5	戸外遊びや散歩の際、虫や鳥の声、電車の音、風の強さ、物の色、花の香など言葉にして伝え、親しみをもち発見を楽しむようにした。	
歌を歌ったり、簡単な手遊びや全身を使う遊びを楽しんだりする	5	季節の歌に簡単な振りをつけ、歌を覚えやすいようにした。また、繰り返し歌うことで子どもたちも曲・歌に親しみ、自ら口ずさんで、歌をリクエストする姿が見られるようになった。	
保育教諭等からの話や、遊びや生活の中での出来事を通してイメージを豊かにする	4	遊びや生活の中での発見や、他児の姿などを言葉にして伝えることで、様々な見方や表現の仕方が身に付き、自分で考えて作ってみる、やってみるという姿が見られるようになった。	
遊びや生活の中で、興味のあることや経験したことなどを自分なりに表現する	4	遊びや生活の中での保育教諭の言葉がけから友達に対して優しい声掛けをしたり、間違っていることを教えてあげたりといった言葉での表現ができるようになった。また、おままごとでの見立て遊びやブロック積み木を使った家や橋の作成などイメージを膨らませて表現することができていた。	

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた下記のこともたちの家になることを見据えて 創意工夫した働きかけができたか？

5: たいへんよくできた
4: よくできた
3: できた
2: ややできなかった
1: できなかった



		結果	備考(身体的なポイントなど)
乳児期の 育児	(1) 身体的発達に関する視点「健やかに伸び伸びと育つ」		
	愛情豊かな受容の下で、生理的・心理的欲求を満たし、心地よく生活をする	5	子どもの気持ちに寄り添い、スキンシップや声掛けをし、子どもたちが安心して生活できるような環境設定を行った。
	一人一人の発育に応じて、はう、立つ、歩くなど、十分に体を動かす	5	一人ひとりの発達に合わせて、「おいで」と呼びかけたり子どもが興味を持てるような玩具を用意し、成功した時には一歩に喜び成功体験を味わえるようにした。
	個人差に応じて授乳を行い、離乳を進めていく中で、様々な食品に少しずつ慣れ、食べることを楽しむ	5	家庭での食事状況を確認したり、栄養士との連携を取り、その子どもに合わせた段階や大きさ等をその都度確認し提供した。
	一人一人の生活のリズムに応じて、安全な環境の下で十分に午睡をする	5	午睡が必要な子供もいたため、午睡を設けていたが園生活のリズムに慣れるように徐々に短くして午睡でぐっすり眠れる様にした。
	おむつ交換や衣服の着脱などを通じて、清潔になることの心地よさを感じる	5	「スッキリしたね」「綺麗になったね」等を笑顔で伝え、子どもたちが進んで脱ぎ履きできるよう促した。
	(2) 社会的発達に関する視点「身近な人と気持ちが通じ合う」		
	園児からの働き掛けを踏まえた、応答的な声かけや言葉掛けによって、欲求が満たされ、安定感をもって過ごす	4	子どもたちが表現していることを受け止め、スキンシップや声掛け・関わりを持ち、子どもたちの欲求が満たされる様努力した。
	体の動きや表情、発声、なん語等を使って受け止めてもらい、やり取りを楽しむ	5	子どもの伝えたいことを、表情や発声等から読み取り、子どもが理解しやすいような簡単な言葉で返答し、コミュニケーションを取った。
	遊びや生活の中で、自分の身近な人の存在に気づき、親しみの気持ちを表す	5	お友達の名前を言う時、お友達を指差しする姿が見られた。また朝の会や手遊び等で子どもの名前を呼ぶ事で友達の存在に気づけるよう促した。
	語り掛けや歌い掛け、発声やなん語等への応答を通じて、言葉の理解や発語の意欲が育つ	5	手遊びやお歌を取り入れることで、動物や果物・色の認識を育むことができた。
	温かく、受容的な関わりを通じて、自分を肯定する気持ちが芽生える	4	様々な活動を通して、出来たことを褒めて認めることで、子どもたちの自己肯定感を高められるような声掛けを行った。
	(3) 精神的発達に関する視点「身近なもの関わり感性が育つ」		
	身近な生活用品、玩具や絵本などが用意された中で、身の回りのものに対する興味や好奇心をもつ	5	園の絵本や紙芝居・保育教諭が用意した絵本等に興味を持ち、自分から絵本を読めるような環境を設定した。
	遊びや生活の中で様々なものに触れ、音、形、色、手触りなどに気づき、感覚の働きを豊かにする	5	感触遊びを多く取り入れ、素材に色を付けたり形の違うものを用意し、五感を刺激した。
	一歳に様々な色彩や形のものや絵本などを見る	5	製作等でクレヨンや絵具を使用し、色に興味を持てるようにした。形がある物を提供し形を伝えることで興味を引いた。
	玩具や身の回りのものを、つまむ、つかむ、たたく、引っ張るなど、手や指を使って遊ぶ	5	ビジーボードを保育教諭が手作りし、つまむ、つかむ等の動作ができるよう促した。
	あやし遊びに興味よく応じたり、歌やリズムに合わせて手足や体を動かして楽しんだりする	5	季節に合わせた体操やリズムを取り入れ、室内でも広々と活動できるような環境設定を行った。